

## ケイシー療法の紹介

(特に水治療の理論について)

1998.12.25

坂本 浩司

殆ど毎日、パソコン通信でアクセスしている東海4県薬剤師会運営の草の根ネットであるTOPNETにおもしろい記事が載っていた。記載者は箕面の猿こと尾崎重喜さんである。

彼は、多分鍼灸師の資格をもつ薬剤師（薬剤師の資格を持つ鍼灸師かも）であり、東洋医学やホリスティック医学にも興味があることを窺わせる内容の文章を時々アップロードしている。

今回は、「冷気の効用」という文章を載せて、エドガー・ケイシーについて触れていた。

エドガー・ケイシーは、どうやら有名な人らしいことが後になって判明した。テレビの「知ってるつもり」でも紹介されている。ひまし油の湿布を使うらしい。そういえば、日野田薬局を開局してまもなく、ひまし油を買いに来た患者さんから、ケイシー療法のことについて質問を受けたが、私はこの療法を知らなかったの、なんとなく冷たい視線を浴びたことを思い出したりして、急に調べてみたくなったわけです。そんなわけで今回は、ケイシー療法的一端を紹介させていただきます。文末に関連書籍を記載しましたが、実際、本屋に行ってみると、エドガー・ケイシーコーナーが在るほど相当数の本が、出版されていました。

まずエドガー・ケイシーとは、ざっと説明しますと

エドガー・ケイシー(1877~1945)は、今世紀前半に米国で活躍した不思議な人物で、目覚めている時は写真業を営む敬虔なクリスチャンでありながら、催眠状態に入ると超人的な能力を発揮し、たとえばあらゆる難病に対して診断と治療法を与えることができたり、あるいは魂の記録(アカシックレコード)を読んで、依頼者の長所や短所、才能や弱点などを過去生をもとに解き明かすことができる人でした。

実際、エドガー・ケイシーには解答不可能な領域はなかったようで、科学者には科学上のアドバイスを、政治家には高い政治理念を、そして人生に絶望している人々には生きる希望と勇気を与え、難病で苦しむ人々には治療法を、魂の病める人々には魂の癒やしを、芸術家にはインスピレーションを与えました。そして67才で亡くなるまでの間に記録に残るものだけでも1万4千件以上の催眠透視を行いました。

ケイシーが亡くなって既に半世紀以上経ちますが、彼の残した情報がきわめて高い実践性と普遍性を備えているために、今日においても、私たちはそこから有益な情報を得ることができます。彼の病気治療に関する原理は『ケイシー療法』という名前で親しまれるほど、非常にしっかりと体系づけられ現在もなお多くの病人を癒やし続けています。また、ケイシーは生まれ変わりの具体的な姿を明らかにし、私たちの人生がどれほど神秘と高貴さに溢れているかを教えてください。

他にも、夢の活用法や、超古代史、新しい時代への予言、科学工学といった様々な分野に時代を超越した情報を残しています。

さらに詳しくエドガー・ケイシーの生涯と業績を紹介します。

---

### ケイシーの生い立ち

エドガー・ケイシーは1877年3月18日、ケンタッキー州の田舎町ホプキンスビルに農家の長男として生まれました。

ケイシーは少年時代に、後の彼を形成する上で重要な意味をもつ出来事にいくつか遭遇しました。まず9才の時に、地元の町にやってきた福音伝道師の影響で、キリストの生き方に魅せられたというエピソードは重要です。ケイシーは、キリストの生き方にあこがれ、自分も将来は病人を癒やしたり、苦しんでいる人々を救うような仕事をしたいと、子供ながら真剣に願うようになったのです。そして10才の時に、父親から聖書を買ってもらおうと、それこそ寸暇を惜しんで聖書を隅から隅まで愛読するようになりました。

たしかに、エドガー・ケイシーの生涯を見ると、いわゆる霊覚者によく見られる「修行」的要素に欠けているように思えます。しかしケイシーの場合は、毎日日の出とともに聖書を読むという日課こそが、彼の霊的資質を開花させたのです。ケイシーは67才で亡くなるまで、毎年一回聖書を通読することを自らに課し、まさに「聖書を生きた人」でした。

少年時代のエピソードとして、あと2つ忘れてはならない出来事があります。

13才の時でした。ケイシーは、いつものように聖書を読み終えて森からの帰宅の途上にありました(彼は、聖書を読むための特別な場所を、家の裏手の小さな森の中に作っていた)。すると、突然自分の名前を呼ぶ声が聞こえ、その声の方を振り向くと、そこにまぶしい光につつまれた女性の姿が見えました。彼女はケイシーにこう語りかけてきました。

「あなたの一歩の願いを言ってみなさい」

エドガー・ケイシーは、驚きで声を出すことが出来ませんでした。聖書を読みながらいつも祈っていたこと——病気の人を癒やし、苦しんでいる人を救うこと。特に病気の子供を救う人になりたい——という言葉が口をついて出ました。するとこの女性にはっきり微笑み「あなたの願いは聞き届けられました。いつまでもその気持ちを持ち続けなさい。そうすれば願いは叶えられます」と言ってケイシーの前から姿を消しました。

もう一つのエピソードは15才の時に起きました。これはある意味で、後年のリーディング能力の開花を予示したものであると言えます。

ある時、学校の昼の休憩時間に友達と一緒に野球をして遊んでいた時のことです。ボールを打って一塁に向かって走っている時に、同級生の投げたボールが尾てい骨にもろに当たってしまいました。ケイシーはおもわず転倒しましたが、その時は何事もなかったかのようにすっと立ち上りました。しかし午後の授業からケイシーの様子がおかしくなりました。授受中に突然ケタケタと笑ってみたり、紙鉄砲を弾いてみたり、羽目はずして騒ぐようになったのです。学校から帰ってからも様子は変わりませんでした。父親は息子の異常に気づき、しばるようにして彼をベッドに寝かしつけました。ケイシーはすぐに昏睡状態に入りましたが、突然威厳のある声で明瞭にしゃべりだしたのです。

「この人は、背骨に当たったボールでショックを受けた。この衝撃から救い出すには、特別のパップを作り、それをこの人の後頭部に貼ることである」

そして、パップに使う数種類の薬草の名前を挙げました。両親は突然のことに呆然としていましたが、眠れるケイシーは激しく追い立てました。

「この人の脳に取り返しのつかない障害を残したくないなら、今すぐ言ったようにしなさい！」

パップが貼られると、ケイシーは深い眠りに入り、翌朝には何事もなかったかのように起きてきました。

## リーディング能力の発現

ケイシー自身は上の学校に進んで、将来は医者か牧師になることを希望していましたが、家庭の経済的事情で、義務教育を終えると16才からすぐに働きに出なければなりません。

農場の手伝い、本屋の店員、乾物屋の店員、靴屋の店員など、いくつかの職を転々としましたが、何をやっても内的に満たされないままでした。医者にも牧師にもなれなかったために、ひどい挫折感にあったのです。

しかし、貧しい家庭に生まれ、進学をあきらめなければならない境遇も、ケイシーのより大きな使命を達成する上で必要なことではなかったのでしょうか。もし彼が、普通に進学し、希望がかなって医者か牧師になっていたとしたら、おそらくは今の我々が知るところのケイシーの業績を残すほどには至らなかったのではないでしょうか。ごく常識的な医者か牧師として生涯を全うしていたのかも知れません。そういった意味で、表面上の逆境とは裏腹に、ケイシーの魂はその本来の使命を成就する喜びに勇んでいたと思うのです。

さて話を戻すと、ケイシーは23才の時、風邪をこじらせたのがきっかけで、原因不明の失声症になりました。声が出なくなり仕事を続けられなくなったケイシーは、実家のホプキンスビルに帰って写真業を営むことを決意しました。

地元でも色々な病院や治療法を試しましたが、どれも効果なく、もう不治としてあきらめかけていたちょうどその時期に、ケイシーは催眠療法ができるという人物に出会うことになります。彼の名前はレインといいました。

レインは、ケイシーが15才の頃に、昏睡状態で自分の怪我を自分で診断し、治療法を与えたというエピソードを聞いて、ひょっとしたら催眠状態でも、ケイシーは自分自身を診断し治療法を与えられるのでは、と考えました。

そこで早速、催眠実験が行われることになりました。1901年3月31日のことでした。

ケイシーは長椅子に横たわると、レインの暗示にすぐに反応しました。深い、深い、催眠状態に入ると、エドガー・ケイシーは自分の病状を診断しました。

「声帯の筋肉の一部が麻痺している。暗示によって、この部位の血流を増加させ、麻痺を取れば声は出るようになる」

ケイシーの指示に従って、レインが暗示を与えると、喉の血流がみるみる増加し、30分後には喉がぼんぼんに腫れ上がるほどになりました。そしてケイシー自身の「もうよい。麻痺は取れた」という言葉を合図に、催眠が解かれました。

エドガー・ケイシーは催眠から醒めると、おそるおそる声を出してみました。「あ〜、あ〜」一年ぶりに声が戻ったのです。これが第一号のリーディングでした。

この現象の意味は、ケイシーよりもむしろ催眠術師のレインが見抜くところとなりました。レインは、ケイシーの能力は、他の病人の診断や治療にも使えるはずだと考えたのです。そこで一週間後、今度はレイン自身を実験台にして催眠透視が行われることになりました。

期待にたがわず、ケイシーはレインの肉体をも透視し、診断と治療法を述べることができました。そして、長年患っていた消化器系の病気を、数週間で治すことができました。

この結果に勇気づけられたレインは、次から次へと、ケイシーに透視診断を頼みました。しかし、エドガー・ケイシー自身は非常に不安を覚えてました。というのも、ケイシー自身は自分が催眠状態で語ったことを何一つ覚えていなかったのです。自分の言ったことで誰かに害を与えはしないだろうか、といつも思い悩んでいました。

そこで、ケイシーは自分が催眠状態で語ったことをすべて記録するように求めるようになりました。このようなケイシーの催眠透視は、後に「リーディング」と呼ばれるようになりました。

ケイシーに、リーディングがケイシー自身の全く知らない専門用語を駆使して、病気を診断したり治療法を述べるということが不思議でなりませんでした。そしてそれ以上に不思議だったのは、自分の述べたアドバイスに従うことで、多くの難病患者が健康を取り戻しているという事実でした。

エドガー・ケイシーは最初、このようなリーディングの方法が、何かクリスチャンの信仰に反するもののように思えて、何度となくリーディングを止めようとした時期がありました。しかし、不思議なことに、その度に再び声が出なくなったり、あるいは自分の妻が結核になったり、長男が怪我をするなどして、リーディングを取らざるを得ないような状況に遭遇したのです。

こうしてエドガー・ケイシーの能力は最初の22年間、もっぱら病気治療に使われましたが、1923年のある日、アーサー・ラマースという人物の出現で、新しい応用分野が切り開かれることになりました。

### ライフ・リーディングの登場

このラマースという人物は、ケイシーの能力は医学に限定されないはずだと考えました。適切な暗示が与えられるなら、科学であろうと、哲学宗教に関してであろうと、また考古学や未来予測、オカルトなどについても、普遍的な視点から解答を与えられるに違いないと考えたのです。

そこで、ケイシーに対して、ラマース自身のホロスコープを解釈するという、当時のケイシーには想像もできないようなリーディングを依頼しました。

ケイシーは、そのような能力があるかどうかはなほ不安でしたが、ラマースの熱意にほだされて、やるだけやってみることにしました。

いつもと同じ調子で自己催眠に入ったケイシーではありましたが、今回は病人の体を診るのではなく、その人の誕生時の天体の配列から、依頼者の性格や運命的傾向を読むというのでした。しかし、いったん催眠状態に入ると、いつもと同じように威厳のある声で、ホロスコープが解説されていったのです。そしてリーディングの終了間際に、ケイシーは「彼は前世で僧侶であった」と漏らしたのです。

催眠から醒めたケイシーは自分の発言に非常に狼狽しました。彼は、クリスチャンとしての信仰生活を誠実に全うすることを最も大切にしていたのに、そのキリスト教の思想と相容れない「生まれ変わり」を自分自身が肯定してしまったのですから。

ケイシーは、自分は悪魔に操られているのではないだろうか、本気で心配しました。そして、リーディングを一切放棄することすら考えました。しかし、ラマースの「疑問があればあなた自身のリーディングに質問してみるべきだ」というアドバイスと、母親の「あなたの力が神に由来するのであれば、善だけをもたらすはず」という言葉に促されて、自分自身の疑問をリーディングで検証してみることにしました。

数ヶ月におよぶ研究と考察の末、ついにケイシー自身、生まれ変わりの概念はクリスチャンの信仰を危うくするものではなく、むしろ信仰を高め完成するものであることを納得するようになりました。ここにリーディングの新しい分野、「ライフ・リーディング」が誕生しました（従来の病気治療のリーディングは「フィジカル・リーディング」として区別されるようになる）。

これ以降、ケイシーの元には、病気の診断と治療法を求めるフィジカル・リーディングと、才能や適職、人生の諸問題に対するアドバイスを求めるライフ・リーディングの依頼が来るようになったのです。

## 病院建設、ARE設立、そして永眠

エドガー・ケイシーのリーディングに新しい分野が誕生して間もなく、ケイシーの能力に関心を持つグループが積極的にケイシーの業績を活かそうと考え始めました。

その中でも、ユダヤ人の資産家ブルメンタール一家は積極的にバックアップし、リーディングの勧めにしたがって1928年にはケイシー病院をオープンするに至りました。また、ケイシーのリーディングを研究する団体が設立されるなど、ケイシーにとって順風満帆な時期になりました。

しかしそれも長くは続きませんでした。病院を開いてわずか三年後には、大恐慌のあおりを受けたブルメンタール兄弟が、資金難を理由に病院経営から手を引いてしまったのです。さらに研究団体も解散し、それに追い打ちをかけるように、1931年の秋には運命鑑定をしたかどで逮捕され留置場に入れられ、試練は絶えることがありませんでした。

しかし、このような試練の中にあっても、ケイシーは自分の仕事に対する希望を失うことはありませんでした。長年、自分自身でリーディングを読み続けていくうちに、彼自身がリーディングのもたらす情報の価値に揺るぎない自信を持つようになっていたのです。また、リーディングの情報を通して霊的にも自己を充実させていたのです。

1943年、ケイシーの伝記『川がある』（邦訳『永遠のエドガー・ケイシー』）が出版されました。これによって全米からリーディングの依頼が殺到するようになりました。ケイシーは自らの健康よりも苦しみにある人々に奉仕することを望みました。その結果、1944年秋、卒中で倒れ、1945年1月3日、ついに戻らぬ人となってしまいました。それから4ヶ月後の復活祭の日、長年苦楽を共にしてきた妻のガートルードがケイシーの後を追うようにして亡くなりました。

## ケイシーの業績

ケイシーのリーディングは1901年から1944年の秋まで、44年間にわたって取られました。1923年以前のは速記記録がとられなかったために、件数等を知ることができませんが、1923年以降の記録に残るものだけでも14305件あります。これらのリーディングは主に次のようなもので構成されています。

### ・フィジカル・リーディング

これは病気の診断と治療法に関するもので、件数としても最も多く、9604件に達します。内容的にもニキビ痕の治し方からガンの治療まで、多種多様です。

ケイシーのフィジカル・リーディングはもともと特定の個人のために取られたものであり、そのため、今の私たちにはあまり価値がないように思われるかも知れませんが、これらのリーディングを研究するなら、エドガー・ケイシーの勧めた治療法には、ある一般的な原理で貫かれているのを理解するようになります。そして、それらの一般的原理を正しく適用するなら、現代においても様々な疾病（特に西洋医学で治療の難しい様々の慢性病など）に卓越した治療効果を上げることができるのです。

大ざっぱに言うと、エドガー・ケイシーの治療原理は英語の頭文字を取ってCAREと呼ばれる原理にまとめることができます。すなわち、循環(Circulation)、同化(Assimilation)、休息睡眠(Rest/Relaxation)、そして排泄(Elimination)です。この中でもケイシーは体内からの毒素の排泄を重視しました。

またひまし油温熱パック、コロニクス、リンゴダイエット、オイルマッサージ、湿電池といった治療方法のメカニズムなども、だいぶ説明されてきました。

### エドガー・ケイシー療法の原理

エドガー・ケイシー療法の原理は一般に、その英語の頭文字をとって「CARE」と呼ばれます。すなわち、

**Circulation** (循環) : 血液・リンパ液からなる体液の循環

**Assimilation** (同化) : 食べた物を適切に消化吸収すること

**Relaxation/Rest** (休息/休眠) : 体を十分に休めること

**Elimination** (排泄) : 体内の老廃物を適切に排泄すること

この4つの原理の中でも、ケイシーは特に4番目の「排泄」を非常に重視し、体内に毒素(老廃物)が蓄積されることを病気の最大の原因と見なしています。

体内に蓄積された毒素(老廃物)を排泄する方法として、ケイシーは食事による方法の他に、ひまし油温熱パック、リンゴダイエット、コロニクス(洗腸)などを勧めています。

血行やリンパ液の循環を円滑にするものとして、ケイシーは各種のオイルマッサージ、(首出し)サウナやスチームバスなどを勧めています。

### ひまし油温熱パック

エドガー・ケイシーの毒素排泄療法の中で最も重要な位置を占めるのが、この「ひまし油の温熱パック」です。ひまし油はトウゴマ(ヒマの実)から採れる植物油ですが、日本では主に下剤として使用されていました。ケイシーは、様々な疾病に対してこの「ひまし油温熱パック」を勧めました。ひまし油パックの一般的な効能として、免疫機能を高めることが知られていますが、他にも、毒素の排泄を促すことが知られています。

適用例としては、胆嚢炎、排泄不良、てんかん、肝硬変、肝不全、硬皮症、頭痛、虫垂炎、関節炎、大腸炎、神経炎、毒血症といったものが挙げられます。

#### [やり方]

用意する物—未精製のひまし油500cc程度(局方の「加工ひまし油」は不可)。ウールまたは綿製のネル(大きさはタオル程度)。サララップ、バスタオル、温熱パッド、重曹少量。

#### 手順

ネルを2重または3重にして、たっぷりめのひまし油に浸す。

肝臓部分を覆うような形で、右脇腹にひまし油の浸透したネルを当てる。

油が他に着かないようにするために、ネルをサララップでおおう。

その上をさらにバスタオルでおおう。

その上から温熱パッドを当てる。

この状態で約1時間横になっている。

パックが終わったら、コップ1杯のぬるま湯に小さじ1杯程度の重曹を溶かした溶液を用意し、それをティッシュやクッキングペーパーなどに浸したもので、体に付着した油や汗をふき取る。

ひまし油パックは毎日実施することも可能ですが、一般的には3日行って4日休むというサイクルで実施します。ひまし油パックにはいくつか禁忌事項があります。まず、女性は生理中に行ってはなりません。出血が増え、生理が不順になります。また、リンゴダイエットと同時にやってはいけません。妊娠中のひまし油パックも非常に効果がありますが、妊娠中はパックを温めないようにします。

### リンゴダイエット

エドガー・ケイシーは、腸壁に老廃物が付着していると(宿便)、そこから発生する毒素が体内に吸収され様々な障害を引き起こすことを指摘しています。この腸壁にこびりついた老廃物をスッキリと出す方法として、ケイシーはリンゴダイエットを勧めました。

やり方は、3日間リンゴだけを食べ続けるというもので、他の食事を一切やめます。ただし、水は十分補給します。また、ミルクを入れなければコーヒーも1日数杯程度は許可されます。

この3日間は、夜寝る前にテーブルスプーンに1杯のオリーブオイル（必ずエクストラ・バージンのもの）を飲むか、最後の3日目の晩にテーブルスプーンに3杯のオリーブオイルを飲みます。

これによって、リンゴの繊維で腸壁にこびりついていた老廃物がきれいさっぱりと体外に排泄されるようになります。

コロニクス（洗腸）

コロニクスは、腸内を徹底的に浄化する方法として、肛門から直接溶液を入れ強制的に洗浄するという方法です。コロニクスを家庭で行うには簡易式のコロニクスセットを購入する必要があります。

乾癬の原因

エドガー・ケイシーはこの病気の原因を、基本的に体内毒素の排泄不良に帰しています。

乾癬の患者は一般的に、腸壁が薄く、そのため体内で生成された老廃物や未消化物などの体内毒素が腸壁を通して体内に逆流してしまい、その毒素を皮膚から排泄しようとするために乾癬が起きるのだと説明しています。

そのため、ケイシーは乾癬の治療に対して、徹底的な体内浄化法（毒素排泄）を指示しています。

治療法の概要

食事制限—ケイシーの基本ダイエット（揚げ物を食べない、豚肉を食べない、砂糖を摂らないなど）の他に、体を酸性にする6種類の食べ物（トマト、ブロッコリー、ナス、じゃがいも、パプリカ、貝類）が禁止されます。

その一方で、体内毒素の排泄を促す食べ物が奨励されます（柑橘系の果物、オリーブオイル、その他）。また、毎日2リットルくらいの水を飲んで、毒素を尿としてどんどん出します。

ひまし油パックとコロニクス—さらに、毒素排泄を徹底させるために、ひまし油パックとコロニクス（洗腸）を定期的に行います。

ハーブティー—他に、サフラン、カモミール、エルムバークといったハーブティを飲みます。

特別な石鹸水—また、ひまし油、オリーブオイルを主成分とする特別なボディソープを使用します。

## ○水治療法（冷気と熱）

自然がうち負かして無くしてしまおうと努力する何らかの健康に対する敵が存在しているのでなければ、いかなる形態の炎症性の疾患も体内に生じることはできない。治癒の基本原則はこの事実に基づいている。

「私に熱をくれればどんな病気でも治せる」

「医学の父」であるヒポクラテスは二千年以上前に治癒の基本法則をこのように表現した。また、江戸後期の医師、平野重誠も

「忽て病の熱を發するといふは、皆人身機関の自然に由て、病を排除せんとするものなれば、熱は病を去の具にして、吾徒兵なれば、之を攻めべきものにあらず」

「俗人は、熱あれば寒てよきものと思ひ、冷るをば温めねばならないことと記得たれども、療治医薬にことは、さよの俗見にてゆくものにあらず。熱あるものを温、寒ものを益々涼して利ものは、常にあることなり。」と示唆している。

言い換えると

「急性の疾患はすべて、自然の浄化及び治癒の努力の試みの結果だ」

傷を治したり、病気を起こしたりする何らかの物質、あるいは健康及び生命にとって危険なその他のあらゆる微生物を、体から除去する自然の努力である。

すなわち、完全に健康で正常な生活を送っている人間には、急性の病気は発現しないのであ

る。

では、急性の病気が自然の治癒の努力を表しているなら、人々が急性の病気で死ぬのはなぜなのか？

それは、活力が少なすぎたり、傷や病気を起こす厄介者が大きすぎたり、治療法が不適當があるいは有害だったりして、自然が闘いに負けてしまうからだ。それでもやはり、急性の病気が、健康及び生命の敵を打ち負かして正常で健康な状態を再び樹立しようとする自然の努力を表しているのだ。

病理学の最も進んだ研究は、炎症の建設的な特質を認めている。だが急性の病気の治療ということになると、多くの医者はこの病理学の基本原理を完全に忘れ、炎症と発熱をそれ自体が健康及び生命にとって有害かつ破壊的であるかのように治療するようだ。この理論と実際の不一致が逆症療法的な医療のすべての誤りが生じている。

すべての急性の反応は、生命力の働きの増大した結果、痛み、赤み、はれ、高熱、速い脈拍、カタル性の分泌物、発疹、はれもの、潰瘍を伴う発熱及び炎症の状態が起こっていることの表れだ。

自然の中の至る所を、作用、反作用の大法則が支配している。すべての生命は、与えることともらうこと、作用と反作用の間を揺れ動く。生命の呼吸そのものが、リズムカルな流れの中を神秘的に行ったり来たりしている。この法則は、そのいくつかの側面に置いて、二元的結果の法則と呼ばれる。この作用に依存するのはエネルギー保存だ。

「与えなさい、そうすればあなたに与えられる」

二元的結果の大法則は治癒の学問の基礎を成す。

この法則は、健康、病気、治癒のあらゆる現象に関係し、支配する。治癒の基本原則とは系統立てて述べるとこういうことになる。

「すべての急性の病気は自然の治癒の努力の結果である。」

そしてそれは、作用・反作用の大法則を言い換えたただけだ。

危機とか急性の反応とか急性の病気とか呼んでいるものは、実は健康な体を確率しようとする自然の試みなのだ。

補償の法則を体の物理的な働きに応用するとこうなる。

「人体に影響を及ぼす作用因はすべて、二つの効果を生み出す。一つ目は明白で一次的な効果、二つ目は永続的な効果である。二次的で永続的な効果は常に、一次的で一過性の効果とは相容れないものである。」

例えば、皮膚に冷水をかけることの最初の一次的な効果は、血液を内部に送ることだが、自然は局所的な放血を補償するために、もっと大量の血液を表面に送り返すことによってこれに反応し、その結果、ぬくもりが増えて表面の血液循環がよくなる。熱い風呂の第一の効果は血液を表面に引き出すことだ。しかし二次的な効果はその血液を内部に送り返すことなので、表面に血液がなくなって冷たくなる。したがって、刺激物は生体の生命エネルギーの備蓄を燃焼し尽くすことによって偽りの効果を生み出すわけだ。後には必然的に、先の刺激に正比例した弱さと疲労がやってくる。

くつろぎと眠りの一次的効果は、弱さと無感覚と死のような昏迷だが、二次的な効果は活力の増加だ。

さらにいえば、二次的な効果の法則はすべての薬物反応を支配する。有害な薬物を生理学的用量投与された場合の最初の一次的で激しい効果は、たいていはこれらの物質に打ち勝って排除しようとする自然の努力が原因で起こる。二次的で永続的な効果は、薬物の毒の体内での保持とそれらが生体自体に及ぼす作用が原因だ。

逆症療法では、理論でも実際でも、薬物及び外科手術の最初の影響だけを考慮して後続作用は無視する。したがって、作用・反作用の法則によると、それらの療法の二次的で永続的な効果は、人体に目下存在する病状に似たものであるに違いない。

緩下剤や下剤は慢性的な便秘の状態を生み出す傾向が常にあるというありふれた日々の経験は、私たちに前記の事柄が正しい事を教えている。いかなる種類の刺激物や強壮剤であっても、その二次的な効果は弱さの増大で、それらを継続して用いると精神力及び体力が完全に疲弊し、麻痺してしまうことが多い。頭痛薬、痛み止め、麻酔薬、鎮静剤、睡眠薬は、脳と神経を麻痺させて一次的な無感覚に陥らせるかも知れない。だが、本質的な原因のせいであるならば、痛み、神経過敏、不眠が必ず倍の力で戻ってくる。風邪及びカタルの治療薬は、

呼吸器系の管の粘液を含む内層を通じて老廃物と病気を起こす物質を排除しようとする自然の努力を抑制し、病気を起こす物質を肺へと追い返し、これが肺炎、慢性カタル、喘息、インフルエンザを引き起こす。

これから今日の本題に入ります。

大気の温度変化及び気圧変化が生体に対して持つ本当の関係を理解すれば、それらの変化が私たちにとって大変友好的で、健康を維持できるように賢明かつ情け深いものであることに気づくであろう。

生体は、体表部からの蒸発を増やすことによって獲得した余剰な熱から解放され、一方、熱の必要を感じると呼吸器官を刺激してその働きを増大させる。

手でも足でも、人の体の表面の暖かい部位を氷のような非常に冷たい物質に接触させると即座に肋骨が広がって横隔膜が下がり、その結果吸う息が異常に深くなり、氷との接触によって失われた熱を完全に回復するまでこの状態が不随意に継続する。

また、私たちが高度に文明化された生活様式によって体の熱生成作用を低下させる時には、それと同時に呼吸活動を損なっているのであり、この面での自分の不品行に比例して多かれ少なかれ自分自身を害しているということ覚えておかねばならない。

慢性の病人は、たいていの場合、温度に関する最も間違っただ概念の犠牲者だ。彼らは、長年の週間であるめめしさによって、呼吸の必要性にあった量の冷気に耐えることができなくなっているのだ。熱生成能力を自分にふさわしく健康的に開発することは運動と同程度に重要で、慢性的病人が最初に注意を向けなければならないことのひとつだ。

生体を冷気の影響に晒すことの適否は必ずしも感覚で決めるべきことではない。

なぜなら、完全に健康な状態でない限り、感覚を信頼すべきでないからだ。冷気の効用は、快い活力と順応性を生体に吹き込むことだ。冷気にさらされるのが程度はともかくとして有害になる得るのは、熱が生体から離脱するのに対応して呼吸が増大しない場合だけだ。

急性の病気を氷嚢と冷水洗浄で治療するのは、熱の放射を促進して熱を下げるため、慢性病の治療では生体を刺激して激しい排泄の努力を起こさせるのが目的だ。すなわち急性の病気の場、水治療法は鎮静剤だが、慢性の病気の場はちょうどその反対で刺激薬だということだ。

冷水を使う意味

#### 1. 血行の促進

体表部に冷水をあてると全身の結構が喚起されて促進される。冷水にあてる前と後との赤血球数と白血球数を比べると後の方では著しく増加するのがわかる。これは、冷水が一瞬のうちに新しい血球を作り出したということではなく、血液が攪拌されて体内を急いで進むよう送られたということで、流れがゆるくよどんだ血流と詰まって障害物のできた組織の中に不活発な状態で横たわっていた怠惰な血球が、活動を増すよう目覚めさせられたということなのだ。

#### 2. 不純物の排泄

冷水は、増大した力で血液が体内を巡るよう駆り立てるため、毛細血管の中が洗い流され、急性及び慢性の病気の根本原因の一つである病気を起こす物質と毒素の蓄積が毛細血管から無くなってきれいになる。血液は体表部へと急いで戻りながら、皮膚をおおい、気穴と毛細血管を開いてゆるめ、そうすることによって皮膚から不純物を取り除く。

同じ事を奥村良筑が書いている「痘疹麻疹ヲ療スルニ、専ラ灌浴ヲ用ユ。死ヲ起シ、生ヲ回ス者、千ヲ以テ数フ。」(行状紀)

又、麻疹死セズ、而モ人ノ死スルハ医ノ誤ナリ。其ノ灌浴ノ法ハ一中略一其毒ヲ升発シテ、内ニ留マラシメズ。故ニ調理宜シキヲ得テ、灌浴時ヲ失セザレバ、廿日ニシテ全癒シ、決して内攻ノ患ナシ。

其法ハ米湯ハ八升ニ酒八合ヲ内レ、病人ヲ以テ槽中ニ座セシメ、灌浴シ拭干スコト須ヒズ。急ニ浴衣ヲ被セ、臥覆シテ微シク汗ニ似タルヲ取レバ、毒邪ハ汗ニ從フテ升発シ没スルモノ復起リ、黯ナルモノ忽チ赤ク、内氣一転シ、諸痛頓ニ止ムベシ。数日食セズ、脚弱ク、頭眩ミ、行ク能ハザル者モ浴シ了レバ輒チ必ズ健歩シテ食ヲ思フ。(医事談)



水治療法は広範な名声を博している医療慣行だが、それはその成功が、温度を治療のために手段として使うことに基づいてきたからだ。水治療法は、おそらくは十分な数だけ実践されてはいないだろうが、重要かつ平易な生理学的原理に基づくものなので、特殊ではあるが合理的な医療だ。水は、迅速、活発、広範に温度変化を起こしてくれ、したがって、特に急性の病気のほとんどすべての緊急事態を処理するのに著しく適合している。

入浴の場合は、私たちがしばしば気付く効果の源泉は、水そのものではなく水の温度なのだ。慢性病の治療では、温水風呂、いろいろな種類の蒸し風呂つまり発汗風呂、赤外線灯、温湿布等の形でぬくもりあるいは熱さの使用のほうを好む自然な健康法の擁護者もいる。

しかし、いくつかの国々では、自然治療法家の大半があらゆる種類の温熱の使用をほとんど完全に止めてしまっている。これはそれらのあと作用が体を弱めるからであり、また多くの場合、期待される結果を生じさせないばかりか、病状を悪化させてきたからだ。

温水及び冷水だけでなくその他のすべての治療薬が生体に及ぼすいろいろな効果は、作用・反作用の法則で説明できる。

「作用と反作用は等しいが相対するものである」という物理学を限定的なやり方で治療学に適合させると「人体に作用するあらゆる治療薬には一時的な一次的効果と永続的な二次的効果とがある。二次的な持続する効果は一次的な一過性の効果とは反対のものである」となる。

体温以上のぬくもりの一次的効果は、暖房用スチームや温水、蒸気、あるいは光のいずれの方法で使った場合でも、血液を表面に引き寄せるということだ。ぬくもりをあてがった直後は、皮膚が赤く上気する。しかし、二次的な持続する効果は（作用反作用の法則に従って）、血液を体の内部へと後退させ、皮膚を血の気のない弱まった状態にし、冷えやすく、風邪やその他の合併症にかかりやすくなる。

これに反して、全身または特定の部分に冷水をあてると一次的な一過性の効果は、表面を冷やして血液を内部へと急ぐように送り出して皮膚を冷えた血の気のない状態にすることだ。この血液の欠如と冷たい感覚は、遠心性神経によって脳の司令部へとただちに知らされ、そこから血液循環を調節する神経中枢へと指令が発せられる、「血液を表面に送れ」と。この結果、血行が促進され、消耗した皮膚に血液が強力に突進し、暖かく赤い血で体の表面を洗い流して健康なバラ色を復活させる。これが二次的な効果だ。すなわち、冷水治療をうまく施すとよい反応が起こり、永続的で有益な多数の結果がこれに伴うということだ。発汗風呂等の温熱の使用による引き寄せて排泄を行う一次的な効果は、数分間だけ持続するせいぜい一次的なことでしかなく、後には必ず体を弱める反作用が起こるが、一方、冷水の使用による引き寄せて排泄を行う作用は二次的な持続する効果で、永続し、活気づけ、強壮にする影響を皮膚に対して行使するため、皮膚は、過剰な熱を受ける発汗風呂のように10～15分間だけでなく、常に、昼夜をおかず垢を捨て去ることができる。

冷水にさらす時間は、その人の体調と反応の力に応じて調節しなければならない。だが、刺激となる電磁的効果が生体に対して生じるのは短時間だということは心に留めておくべきだ。水の温度は5度～13度の範囲でなければならず、時間は1～3分間くらいだ。

神経を活気づけ、心拍を促し、呼吸と代謝を高める。

註：赤本にも同じ事が書いてある。

冷水摩擦と冷水浴の項で

「健康長寿の積極的方法として、又一面には腺病質の改造、肺病、胃腸病等の抵抗療法、神経衰弱、ヒステリーその他色々な病気に対し、この水治療法ほど顕著の効果を奏するものは他にないと信じます。著者は数年間此の方法を実行して、お陰で生来虚弱な体質をりっぱに改良した底力の強い体験を持っております。」と書いてあり、なお続いて「皮膚に寒冷刺激を与えると、皮膚血管収縮して、一時血液が体の内部に引き込むために色が青くなる。これを第一次の皮膚反応と称して居ります。次ぎに此の反動として内部に引き込んだ血液が、非常な勢いを以て外表に流れ出てくる、之が第二次的反応で此の二次的反応が早くくれば風邪を引かない、けれども何時までも此の反応が起こらずに悪寒が来て血液が体の表層に出てこない、内部の充血を起こして「のど」が腫れたり、気管に「カタル」を起こして咳が出たりするのであります。此の二次的反応を早く促すには冷水浴の後の摩擦である。」

あらゆる冷水治療法の要点は、それを行う前に体を温めること、水が冷たい（自然な温度である）こと、動作が速いこと、血行を促進するために摩擦を与えるか運動することだ。体が冷えた状態の時には冷水治療は行ってはならない。

このあたり、全く同じ表現を使っている。ちなみに赤本の初版は大正14年（1925年）である

#### 過去における水治療

古事記・日本書紀の原本であろうと言われる「秀真伝」には「心を明かす歌の道、禊の道は身を明かす」とあり、体を健やかにするのは禊であることがうかがえる。

**禊 みそぎ** 罪や不浄をとりのぞき、身をきよめるための神道儀礼。「禊祓(みそぎはらえ)」ともいう。祓の一種ともみなされるが、とくに、川や海にはいって、水の清浄な力であらいながすことをいう。沐浴(もくよく)も同じ意味でつかわれる。

#### 語源

「みそぎ」の語源については、「水(みず)滌(そそぎ)あるいは「身(み)清(すすぎ)」とするのが有力で、ほかに罪や穢(けがれ)を身体からとりさる「身削(そぎ)」とする説がある。記紀神話に、イザナキノミコトが黄泉国(よもつくに)を訪問した後、身体についての汚穢(おえ)をのぞくために、川の中瀬で「禊祓」したという起源説話をのせている。

#### 天皇の禊

禊は、神事に奉仕する人に対して要請されるもので、祭りの前におこなわれた。天皇が、大嘗祭の前月におこなう御禊(ごけい)、伊勢神宮の齋宮・賀茂(かも)神社の齋院が、潔斎にはいる前や祭りの前におこなう御禊は、もっとも大規模なものである。天皇による御禊は、年中恒例の祭りで勅使を發遣するときや、神社に行幸するときにもおこなわれていた。この禊の簡略化した形式が、神社への参詣者が入り口でおこなう手水(てみず：ちょうず)である。

中世以降、禊には修行的な要素もくわえられる。「垢離(こり)を搔(か)く」とか「垢離をとる」といって冷水をあびる垢離がそれで、これによって、精神的な清浄をえることも重視されている。<sup>1</sup>

大神大穴持命の御子（出雲国風土記）、持統天皇（日本書紀）、元正天皇（続日本紀）に灌水や浴水、滝に打たれることによって病を癒した事が記されている。

#### 曲水の宴

「曲水の宴」の由来春の禊春暖の陽気は人々の心はずませるが、一方、疫病のはやりをもたらすものであって、中国であれ、日本であれ、純朴な古代の民衆は、野山の川原に出、水を浴み身を清め、無病息災を祈る信仰が続いていたのである。此の春のみそぎは、奈良・平安時代に、大宮人の春の雅遊となって曲水の宴に発展し、平安時代、貴族の姫の雛かざりとかさなって、三月三日の桃の飾句（雛まつり）へと進展したのである。三月上巳の日日本書紀、顕宗天皇元年（485）「三月上巳（二日）後苑

に幸して曲水の宴きこしめす」と、又、「公卿大夫・臣・連・国造を集へて宴を為す」とあり、宮中儀式にとりあげられ、やがて公卿文人の遊びに、後には大名・町民の曲水の宴として、それぞれに楽しみ遊ばれて来たのである。城南難宮の雅遊平安王朝源氏物語絵巻にみるような前栽を流れる遣水に著き、歌の道の上手、公達女房達の催す曲水の宴こそ風流と云えましょう。城南離宮は、光源氏の邸宅、六条院の四季の庭を理想として、春秋の築山・池泉をこしらえた模様であり、ここで屢々歌会が催されたのである。

曲水の宴は日本においても大陸の最高級の文化として受入れられた。大和朝廷時代、顯宗天皇の元年（四八五）にすでに曲水（蘭亭修禊）の宴を催したと、『日本書紀』には書かれてある。

「三月上巳（三日）、後苑に幸し曲水の宴あり」

当時日本の文化人にとって曲水の宴は最新の雅遊であったであろう。そしてその流行は奈良時代まで確かに続いたろうと思われる。〔金銀平文琴〕はまさに大陸の文化と美学が凝縮された楽器だったのであり、奈良時代から国宝級の扱いを受け、雅人ら大切にされてきたと推察出来るのである。

灌法（身体に冷水をかけたり、水につけたりする治療法）

中神琴溪の灌法による治療例

- 1, 発狂と便秘  
治療：三黄丸に金石丸を兼用。灌水。
- 2, 高熱と不眠  
治療：たらいの水につけておく。石膏を煎じて服用
- 3, 喘息とてんかん  
治療：水を首からかける。（30日間）  
三聖散
- 4, 精神不安定  
治療：灌水
- 5, 天然痘と頸椎の痛み  
治療：手拭いを冷水につけて湿布
- 6, 眩暈  
治療：たらいに浸す。
- 7, 急驚  
治療：たらいに浸す。
- 8, 精神朦朧  
治療：灌法と金石丸
- 9, 風邪  
治療：水を首からかける。衣服をたくさん着て布団をかぶる。
- 10, 天然痘  
治療：米のとぎ汁、酒6・7合、塩ひとつまみをませ、温めてこれに入浴。
- 11, 打撲  
治療：灌水

月遅れ8月7日の七夕には、子供たちが前日に作った2本の七夕飾りを、大久保海岸の堤防に立てます。

昔は海の中に石臼を置いて6本立てていたそうです。水辺や水中に立てたのは、ご先祖様の霊を迎えるお盆の前に、人々が水で身を清めるという風習に端を発していると言われています。

神社で神輿を用いるのは、祭礼にあたっての神幸祭（しんこうさい）のときです。神幸とは、御神体が本社から御旅所（おたびしょ：神幸の中継地および目的地となる所、本社や御祭神に由緒のある場所が選ばれる）に渡御（とぎょ）することをいいます。このとき、氏子たちが神輿をかついで各地区を練り歩きますが、そうすることで神さまに各地区をご覧いただくのです。神幸の途中、神輿を上下左右に振り動かしたりして、わざと荒々しく扱うことがあります。これは神輿に坐す神さまの「魂振り（たまふり）」で、これにより神さ

まの靈威を高め、豊作や豊漁、疫病の退散になると信仰されているのです。また、海や川に神輿を入れることもあります、この場合は一種の禊(みそぎ)神事と考えられています。

#### まとめ

水治療法を勧めている医師は少ない。日本においても厥陰病の寒熱の見極め方などむずかしいので、ある程度の漢方の知識が必要であろう。

先にも書いたが、西洋においてもヒポクラテスの時代から行われていたらしい。19世紀に入ってプリースニッツの「我が水治療法」フレーカーの「水治療法の実践法及び理論」がある。そろそろホメオパシー治療の絶頂期に当たる時代である。ハーネマン(1755~1843年)ホリスティック医学の祖と言われるエドガー・ケイシー(1877~1945)も1901年頃から活躍を始める。(全米にホメオパシー医15000人1900年)

日本における水治療法の多くは、天然痘、麻疹等の皮膚症状を伴う熱に対しての治療に多く用いられると同時に精神神経系における病気の治療に多く用いられている傾向にある。

ストレスにやられ易くなって歪んだ体をもってしまった現代人にとって、また、与えられるばかりの治療方法に、慣れてしまった私たちの心と体の汚れを洗い流してくれる水治療法を是非勧めていきたい。それも、思いっきり冷たい水を浴びせられる覚悟で。

尚、今回の発表に関して参考にさせていただいた文献

「水治」「水と湯」「行水」「湯治」「甘さの構図」(すべて大友一夫先生)から引用多数。「エドガー・ケイシー療法入門」、「ホリスティックヒーリング」など。

#### 参考

水治法に関して記載されている文献(飲水・灌水・浴水・湿布等)

素問・靈樞・脈経・傷寒論・金匱要略・活人書・史記倉公伝・中蔵経・後漢書華佗伝・両朝平壤録・巢源傷寒候・千金方・南史・儒門事親・外台秘要・医家必読・宋史立伝・医方集成(医方大成論)・焦氏筆乘・本草綱目・名医方考・吳崑医方考・肘后方・日本書紀・出雲国風土記・続古事談・栄華物語・大鏡・蜻蛉日記・徒然草・医心方・医略抄・百家琦行・医談抄・古林見宣伝・灌水篇(古宇田知常)・灌水論(橘尚賢)・瀑布効能記(同) 医事啓源(今村了庵)・水療浴辯(平野元良)・既済私言(同)・水志(岡田滄海)

#### 年表

後藤良山	(1659~1733)	綱吉の時代	1680~1709	北米に英の13植民地	1733
奥村良筑	(1687~1761)	享保の改革	1716~1745	ワットが蒸気機関改良	1765
中神琴溪	(1743~1833)	古事記伝	1798	アメリカ建国	1775
サミュエル・ハーネマン	(1755~1843)	天保の改革	1841~1843	アヘン戦争	1840
築田多吉	(1871~1956)	明治維新	1868	南北戦争	1861
エドガー・ケイシー	(1877~1945)				

#### ケイシー 関連出版物

タイトル 著者 出版社 価格 解説

愛と転生の秘密 ジナ・サーミナラ たま出版 ¥1300

あなたもケイシーになれる 下 H・B・パーマー 中央アート出版社 ¥1340

あなたもケイシーになれる 上 H・B・パーマー 中央アート出版社 ¥1340

永遠のエドガー・ケイシー トマス・サグラー たま出版 ¥1900

エジプトからアトランティスへ エドガー・ケイシー たま出版 ¥1500

エドガー・ケイシー悟りの発見 イシュウ・アル・C・シャルマ 中央アート出版社 ¥1650

エドガー・ケイシーの実証考古学 グレン・D・キトラ たま出版 ¥1400

エドガー・ケイシーの人生を変える健康法 福田高規 たま出版 ¥1500

エドガー・ケイシー療法入門 W・A・マックギャレイ 中央アート出版社 ¥1650

エドガー・ケイシーアトランティス物語 エバンス・ケイシー 中央アート出版社 ¥1650

エドガー・ケイシー1998最終シナリオ K・ネルソン たま出版 ¥1200

エドガー・ケイシー内なる世界を探る ヒュー・リン・ケイシー 中央アート出版社 ¥1650  
エドガー・ケイシー健康ハンドブック H・J・レイリー 他 中央アート出版社 ¥1650  
エドガー・ケイシー前世の記憶 ジェス・スターン 曙出版 ¥1200  
エドガー・ケイシーのアトランティス大警告 マリー・エレン・カーター たま出版 ¥790  
エドガー・ケイシーのインナービューティー革命 ローレンス・M・スティンハート たま出版 ¥820  
エドガー・ケイシーの家庭医療ガイド 光田秀 監修 たま出版 ¥1400  
エドガー・ケイシーの家庭と結婚 下 G&W・マックギャレイ 中央アート出版社 ¥1340  
エドガー・ケイシーの健康食 アン・リード他 たま出版 ¥1300  
エドガー・ケイシーの人類を救う治療法 福田高規 たま出版 ¥1500  
エドガー・ケイシーの精神革命 ヒュー・リン・ケイシー たま出版 ¥1400  
エドガー・ケイシーの前世 W・H・チャーチ たま出版 ¥1500  
エドガー・ケイシーの瞑想の道標 E・セクリスト たま出版 ¥1000  
エドガー・ケイシーの夢解釈の本 ヒュー・リン・ケイシー 他 たま出版 ¥1200  
エドガー・ケイシーのリーディング占星術 マーガレット・H・ガモン たま出版 ¥1300  
神の理性 ジナ・サーミナラ たま出版 ¥2000  
ザ・エドガー・ケイシー ジェス・スターン たま出版 ¥1800  
性と霊魂の旅 上 H・B・パーマー 中央アート出版社 ¥1340  
性と霊魂の旅 下 H・B・パーマー 中央アート出版社 ¥1340  
1998年世界大破局への秒読み 林陽 曙出版 ¥1200  
地球卒業者「18人」の過去生 V・シェリー 中央アート出版社 ¥1500  
超能力の秘密 ジナ・サーミナラ たま出版 ¥1600  
転生の秘密 ジナ・サーミナラ たま出版 ¥1800  
ドリーム・レッスン 福田高規 たま出版 ¥1300  
夢予知の秘密 E・セクリスト たま出版 ¥1500  
エドガー・ケイシー 超人へのめざめ 上 ジェス・スターン 中央アート出版社 ¥1650  
エドガー・ケイシー 超人へのめざめ 下 ジェス・スターン 中央アート出版社 ¥1650  
超人ケイシーの色と形の魔術 斉藤啓一 学研 ¥870  
エドガー・ケイシーの人を癒す健康法 福田高規 たま出版 ¥1600

-----  
<<伝記と業績>> 書名 著訳者 内容 価格 出版社

永遠のエドガー・ケイシー トマス・サグラー著/光田 秀訳 エドガー・ケイシーの感動の生涯 1800円 たま出版  
ザ・エドガー・ケイシー ジェス・スターン著/棚橋美元訳 E・ケイシーの業績の現代的意味 1800円 たま出版  
奇蹟の人 J・ミラード著/十菱 麟訳 エドガー・ケイシーの明快な伝記 1236円 霞ヶ関書房  
超人へのめざめ ジェス・スターン著/上牧弥生訳 若き頃のエドガー・ケイシーの人生 1650円 中央アート

-----  
<<ケイシー療法>> 書名 著訳者 内容 価格 出版社

エドガー・ケイシーの健康食 アン・リード著/梶野修平訳 食事による健康法 1300円 たま出版  
人生を変える健康法 福田高規著 家庭でできるケイシー療法 1500円 たま出版  
人類を救う治療法 福田高規著 日本人にわかりやすいケイシー療法 1500円 たま出版  
インナー・ビューティ革命 ローレンス・スティンハート著/光田 秀監修 ケイシー一流美容法の決定版 820円 たま出版  
エドガー・ケイシーの家庭医療ガイド エドガー・ケイシー財団編集/光田 秀監修 ケイシー療法の薬剤・治療器具の辞典 1400円 たま出版  
エドガー・ケイシー療法入門 W・マクギャレー著/林 陽訳 ケイシー療法の原理と実践 1650円 中央アート  
エドガー・ケイシー健康ハンドブック ハロルド・レイリー著/五十嵐康彦訳 食事療法・整

体整骨・マッサージ療法 1650円 中央アート

驚異の波動健康法 J・ブルック・バラード著／林 陽訳 波動をつかった健康法 1500円 中央アート

-----  
<<輪廻転生>> 書名 著訳者 内容 価格 出版社

転生の秘密 ジナ・サーミナラ著／多賀瑛訳 人間が輪廻することを証明する不朽の名作 1800円 たま出版

愛と転生の秘密 ジナ・サーミナラ著／自然研究会訳 生まれ変わりの背後に働く神の摂理 1300円 たま出版

転生の教訓 M・A・ウッドワード著／加藤整弘訳 生と死を超えるカルマの法則 1854円 たま出版

エドガー・ケイシーの前世 W・H・チャーチ著／五十嵐康彦訳 ケイシー自身の5万年間の転生の記録 1500円 たま出版

人類の運命を読む L・W・ロビンソン著／今村光一訳 人類の誕生から1998年までの物語 1340円 中央アート

私は前世の秘密を知った ノエル・ラングレイ著／今村光一訳 前世の記憶と転生の秘密を解く 1340円 中央アート

前世からの恋人(上下) ジェス・スターン著／林 陽訳 究極の恋人を捜す不思議な物語 各1650円 中央アート

地球卒業生18人の過去生 V・M・シェリー著／林 陽訳 転生を越えて太陽系を卒業した人々 1500円 中央アート

エドガー・ケイシー前世の記憶 ジェス・スターン著／林 陽訳 前世と現世の不思議な物語 1200円 曙出版

輪廻体験 片桐すみ子編訳 過去生を見た人々の証言 1854円 人文書院

-----  
<<夢活用法>> 書名 著訳者 内容 価格 出版社

夢予知の秘密 エルセ・セクリスト著／山田・久保田共訳 夢のメッセージを活用する秘訣 1500円 たま出版

夢解釈の本 ヒュー・リン・ケイシー著／大西 憲訳 無意識の言語としての夢 1200円 たま出版

ドリーム・レッスン 福田高規著 実践的な夢活用法 1300円 たま出版

ドリーム・ヘルパー ヘンリー・リード著／桜井久美子訳 夢で知る魂の不思議な力 1200円 たま出版

夢の世界へ マーク・サーストン著／住友 進訳 ケイシー流夢解釈の入門書 1650円 中央アート

[ホームに戻る | 伝記と業績 | ケイシー療法 | 輪廻転生 | 夢活用法 | 心と魂を養う | ピラミッド | 予言]

-----  
<<心と魂を養う>> 書名 著訳者 内容 価格 出版社

超能力の秘密 ジナ・サーミナラ著／十菱 麟訳 魂とサイキック能力を高める 1600円 たま出版

キリストの秘密 R・H・ドラモンド著／光田 秀訳 キリストの偉大なる生涯と魂の救い 1500円 たま出版

エドガー・ケイシーの実証考古学 グレン・キトラ著／大西正幸訳 死海写本の謎と真実 1400円 たま出版

ケイシーの精神革命 ヒュー・リン・ケイシー著／梶野修平訳 ケイシー霊学の真髄 1400円 たま出版

瞑想の道標 エルセ・セクリスト著／林 陽訳 安全で有効な瞑想法 1000円 たま出版

我が信ずること エドガー・ケイシー著／瓜谷 侑広訳 ケイシーの講演録 1000円 たま出版

リーディング占星術 マーガレット・H・ガモン著／林 陽監修 転生と占星術の不思議な関係 1300円 たま出版

シンボロジー バイオレット・M・シェリー著／林 陽監修 ケイシーの象徴学 1236円 たま

出版

天使に出会うための10章 ジェーン・ハワード著／桜井久美子訳 あなたを守護する天使との交流 1600円 たま出版

セルフコントロール マーク・サーストン著／永島洋子訳 宇宙意識に自分の意志を同調させる 1600円 たま出版

あなたもケイシーになれる(上下) H・B・パーヤー著／今村光一訳 ケイシー哲学の理論と実践の書 各1340円 中央アート

性と靈魂の旅(上下) H・B・パーヤー著／今村光一訳 現代の性の悩みに鋭く迫る 各1340円 中央アート

家庭と結婚(上下) マクギャレー夫妻著／今村光一訳 理想の家庭と築くための指針 各1340円 中央アート

ミュージック・アズ・ザ・ブリッジ S・R・ウィンストン著／林 陽訳 音楽療法による心と魂の癒やし 1700円 中央アート

大宇宙の神秘 J・ブルック・バラード著／林 陽訳 大宇宙が人に及ぼす神秘的作用 1800円 中央アート

エドガー・ケイシー内なる世界を探る ヒュー・リン・ケイシー著／林 陽訳 開かれた無意識の神秘 1650円 中央アート

魂の旅 マーク・サーストン著／住友 進訳 本当の自分を見つけるために 1650円 中央アート

エドガー・ケイシー悟りの発見 イシュヴァル・C・シャルマ著／林 陽訳 カルマと転生にインド哲学者が迫る 1650円 中央アート

---

<<ピラミッド>> 書名 著訳者 内容 価格 出版社

エドガー・ケイシーのアトランティス大警告 マリー・カーター著／浜野永三訳 アトランティスの崩壊を繰り返さないために 790円 たま出版

エジプトからアトランティスへ エドガー・エバンス・ケイシー著／吉田恵美訳 ピラミッド建造の秘密とアトランティス文明 1500円 たま出版

エジプト超古代史への挑戦 マーク・レーナー著／林 陽訳 エジプト古代史への謎に迫る 1650円 中央アート

アトランティス物語 エドガー・エバンス・ケイシー著／林 陽訳 幻のアトランティス文明崩壊の謎 1650円 中央アート

---

<<予言>> 書名 著訳者 内容 価格 出版社

1998最終シナリオ カーク・ネルソン著／光田 秀訳 世紀末人類はどのような運命を選択するのか 1200円 たま出版

世界大崩壊のシナリオ J・F・ワルブルド著／林 陽訳 人類の危機と中東大予言 1500円 中央アート

1998年地球大異変 レイモンド・ウィレット著／林 陽訳 世紀末の予言 1500円 中央アート

1998年ケイシーの世界大破局への秒読み 林 陽著 様々な予言書から世紀末を読む 1200円 曙出版